

私が生活している社会

グループ4
教育文化学部
1811102 金玟廷

1. 紹介文

今回私が主題として選んだのは「私が生活している社会」でした。どんな社会でもそれなりに大事な意味を持っていると思いますが、どちらがさきか考えてみれば自分と関係ない社会より自分が住んでいる社会が最優先されると思ったからです。

2. 散歩に行ってみて

私たちのグループは二人ずつ「友達」と「私が生活している社会」を選びました。それで一回目の散歩は「友達」を、二回目の散歩は「私が生活している社会」を考えながら行って来ました。

一回目の散歩の時には学校の正門で集まり、グランマートに行って一緒に昼ごはんとお菓子を選んで学校の近くの公園で話し合いました。実家の家族のこととか自分が勉強していること、なりたいことなどについて話しました。お互いについて簡単なことを話しましたが、それだけで相手のことを少しでも知る機会になってとてもよかったです。

二回目の散歩の時には同じく学校の正門であつまり、自転車で千秋公園に行きました。秋の千秋公園はとてもきれいで、なんとなく楽しくなりました。公園内の神社でおみくじを取ったり、猫ちゃんとあったりしたのが特に面白かったです。その他にも紅葉を見たり、城のまわりを見たりしました。千秋公園の散歩の後には駅前での食事でした。皆でひないち鳥の店で食べることに決めました。私たちはみんなひないち鳥のカレーを選びましたが、とてもおいしくていつも食べたカレーとは違う食感でした。カレーを食べながら各国（日本、中国、韓国）の食文化についても簡単に話してみましたが、各国の好みとか料理の種類が別々で面白かったです。

3. 話し合いの結果

私たちのグループの主題は二人ずつ「友達」と「自分が生活している世界」だったので2組に別けて自分なりにその主題を選んだ理由、その主題が持っている意味などについて話し合いました。「私が生活している社会」を選んだのは留学生の私と張さんで、なぜ留学生だけそう思ったか考えて見ましたが、理由は「住んでいる状況が変わる」ことで決められることだと気づきました。私と張さんが今まで住んでいたとおりただ自分の国で生活していたら、たぶん「家族」や「友達」を選んだかも知りません。私も韓国に住んでいたときにはあまり「自分が住んでいる社会」に考えて無かったです。ただいつものことで、当たり前な状況だと思っただけです。私の場合は今までずっと実家で生まれて育てられたので住んでいた状況が変わったことはありませんでした。だから住んでいたところにどんな店ができたかとか、どんなところで何かをするのが楽しいということは当たり前ことだったです。でも留学をして、秋田に住み始めたときにはただ自分の新しい生活になれることに精一杯で今まで住

んでいた町のことは考えず過ごしました。最近は今まで住んでいたところより秋田で楽しいところ、秋田でおいしい店、秋田でしたいことについて考えているばかりです。もちろん時々今まで住んでいた所についてもかんがえています。「どんな店がおいしかったなあ」とか、「友達のあの店で話すことが楽しかったな」と。でもそれは考えだけです。完全に忘れたとは言えませんが、優先順位は「今生活している秋田」になりました。友達を選んだ方にも「今まで生活しているところから離れて、新しい国に留学するとしたら同じ主題を選びますか」と聞きました。二人方とも「もしかしてそんな状況になったら張さんか金さんのように考えたかも知りません」と言ってくれました。二人は高校時代か大学の同級生の友達について話したので、それこそ今生活している秋田にいるから「友達」という主題を選べたんじゃないかという話でした。私も逆に考えて見ると自分が留学していなかったらこんな主題については考えて無かったかも知りません。今自分にとって大事なことは、人それぞれの状況によって違うことを分かって不思議な感じでした。

4.私が生活している社会と私

私は今まで「自分だけを」考えるのはエゴイストだけのことだと思いました。今自分より苦しんでいる地球反対側の人もいるから、自分だけが辛いとか、自分だけを考えるのは間違っていると思いました。でもそうではなかったです。自分の生活を最優先しするのは人間なら誰でも当たり前のことだと思います。私も今同じです。いつも韓国に残っている家族や友達、親戚や知り合いのことばかりを考えてはいいです。今日の前にいる自分の生活があるからです。でもそれはエゴイストだからでもないし、あの人たちのことを心配していないということでもありません。自分なりの生活の中で相手をちゃんと考えています。逆にその人たちをもっと大切にす切っ掛けになりました。ただし何が優先しされているのかの問題です。私は今まで両親と生活したので生活の中で自分で何かを決めて、確認して生きていくのは考えてなかったです。でも秋田に来てからはちゃんと自分で全てを決めて、自分で問題を解決して、自分でやることを確認しながら自分なりの生活パターンに向き合う方法を学びました。それで考えたことがあります。それなりの生活は誰にとっても大切なことです。でも「人それぞれの生活の中で、相手から私との思い出を考えたり、心配してくれることと逆に私から相手のことを思い出したり、心配することはすごいことだ」ということです。私として「今住んでいる社会」はただ今生活している社会だけのことではありません。ここで住むために今まで習ったこと、生活していた所、会った人との絆なども全部含めたものです。だからこそ私にとって「今生活している社会」はた今だけではなく今からも習い続けられる延長戦上にある過程のひとつ、人生のひとつです。

5.「社会」とは何か

私は「社会」というのはただ人たちの「組合」だとは思いません。社会というのは色々な人が集めてお互いのことをちゃんと考えられるきっかけで、その人に悪影響も好影響も与えるものだと思います。どんな社会と会ってどんな考えに向き合うのかによって人の価値観、性格、人生観などが全て変ると思います。でもそれはただ「どんな社会に会ったか」によって変るのではなく、その社会と向き合う人の態度によって変ることだと思います。例えば同じ社会で似ている生活をする人でも、その人がその状況でどんなことを考えたか、どんな経験に向き合ったかについて180° 変ります。それに社会というのは逆に人間の影響

を与えられるものでもあります。その社会の中でどんな人がどんな考えをして生きていくのかについてその社会も変わります。つまり、社会というのは人間とお互い色々な影響を与えて成長していくことだと思います。私と親友の場合、最初にはお互い仲が悪かったです。私からも、あの子も他の子たちの話だけを聞いて相手のことを『いやな子』と決め付けたからでした。でも付き合っただけで考えたのは「そんな子ではないじゃない!!」ということでした。私と親友が付き合い始めてから変わったのではありません。ただ相手についてちゃんと理解したいという気持ちをもっていただけから本当の相手に出会ったのです。相手をちゃんと知りたがる気持ちが私と親友の間にある小さい「社会」を変ったのです。あの時以来、私はどんなことでもできるだけ客観的に考えようと努力しています。友達でも、知り合いでも、社会でも、学校でも、それなりの理由、いい点、悪い点があるはずなのに、一面だけを見て決め付けることがばかばかしいと思います。

6. クラスについての感想

今回の授業は以前のように一人の相手に向き合うことではなかったもので、似ていても考える主題か視線が変わる気がしました。以前のように人のことだけを考えるのではなく、自分のことを考えて相手との共感、相手の考えを知ることなどがとても楽しかったです。